

春季永代経を勤修しました

新型コロナウイルスの感染が続いており、感染した人の症状が急変することがあるという報道もあつて、役員の皆さんと相談の上、秋季に引き続き、勤行だけの短縮版でお勤めしました。永代経は、先にお浄土に還られた方々をしのびつつ、手を合わせる法要です。法話を聴かせていただくことはできませんでしたが、お陰様でお天気に恵まれ、無事に執り行うことができました。ありがとうございます。早く元の生活に戻りたいものです。

ところで、東京オリ・パラ組織委員会の森会長の女性蔑視発言が大きな社会問題になりました。これは森さん個人の問題だ

と。これは森さん個人の問題だ

謹んでお悔み申しあげます

去る、二月二七日に堀 武司さんがご逝去されました。ご遺族の皆様にも門信徒一同謹んでお悔み申しあげます。

武司さんは、2回目の区長をされていたときに倒れられ、以

けでなく、社会全体そして私たちの問題だと考える必要があるでしょう。私自身も同じことをしている。まずは私が変わる必要があります。でもなかなか変われませんね。そのことに気づかせていただくことが大事なのでしょう。なんまんだぶ、なんまんだぶ。(住職)



来、すまさんや、ご家族の介護を受けて車イスで過ごされ、お講さんにもお参りされておられました。寂しさはつきませんが、武司さんを偲びつつ手を合わせさせていただきます。合掌。

三月(弥生) 予定

二〇日(土) 彼岸会(内勤め)

二七日(土) お講

役員会 十九時

3月は卒業シーズン。卒業される皆さん、おめでとうございます。

これだけは知ってしよう

浄土真宗の教章II

教義

阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還って人々を教化する。

生活

親鸞聖人の教えに導かれて、阿弥陀如来の御心を聞き、念仏を称えつつ、常にわが身を振り返り、慙愧と歓喜のうちに、現世祈禱などに頼ることなく、御恩報謝の生活を送る。

宗門

この宗門は親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の集う同朋教団であり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝える教団である。それによって、自他ともに心豊かに生きることでできる社会の実現に貢献する。

お知らせ1

清浄光の新しいファイルをお届けします。1号〜100号、101号〜200号まで、201号〜264号と3冊に分けて綴じて時々見直してください。

お知らせ2

滋賀教区の機関紙「おうみ法友」春号と青年布教使による「若布信聞(わかめしんぶん)」が届きましたので、清浄光とあわせてお配りします。ぜひお読み下さい。

# 清 浄 光

覚浄寺だより

絶景！ お寺めぐり(渡岸寺)

国宝十一面観音様で有名な長浜市高月の渡岸寺(どうがんじ)観音堂におまいりして来ました。お堂で参拝を済ませ順路に従って進んでいくと、高さ2メートルもある大きな観音様と大日如来がお出迎え。この仏さまは、今から1200年以上の昔、疫病が大流行し多くの人が亡くなったことから平安を願って彫られたそうです。姉川の合戦の際には、地域の人たちが土の中に埋めて難を逃れたと言われています。その後、お寺が廃れた時期もあったそうですが、今は、真宗大谷派の向源寺の飛び地境内として、多くの人に親しまれているそうです。帰り際に地元の人に呼び止められ、姉川の合戦や小谷城について親しく教えていただきました。

(住職)



三月(弥生)ひな祭り  
明かりを  
つけましょ  
ばんばりに



暮らしの中の仏教語

「兎角」とかく

夏目漱石の小説『草枕』の冒頭に「兎角に人の世は住みにくい」とあって、とにかく・ややもすれば・要するにノ意味に使われていますがこれも本来は仏教からの言葉で「兎角亀毛」と書きます。もちろん、兎に角などなく、亀に毛など生えていません。つまり、元は、ありえないことのとたとえて使われていたのが誤解されて前出の、とにかくのような言葉に代わってしまったのです。兎角がなぜ今日のような意味で使われるようになったのかは不明。

お正月号の「大棒かるた」の正解です。(一問1点で40点以上で合格です。)

い 犬も歩けば(棒)に当たる  
ろ 論より(証拠)  
は 花より(団子)  
に 憎まれっ子世に(はばかり)  
ほ 骨折り損の(くたびれ)もうけ  
へ 尻をひつて(尻)つぼめ  
と 年寄りの(冷や水)  
ち 塵も(積もれば)山となる  
り 律義者の(子沢山)  
ぬ (盗人)の昼寝  
る ルリもハリも(照らせば)光る  
を 老いては(子に)従え  
わ 若いときに(苦労)せよ  
か 壁に(耳)あり  
よ 葦の穴殻(天)のぞく  
た 旅は(道連れ)世は(情け)  
れ 良薬は口に(苦し)  
そ 惣領の(甚六)でおっとりし  
つ 月と(すっぽん)大違い  
ね 年には(念)を入れよ  
な 泣きっ面に(蜂)  
ら 楽は(苦)の種  
む 無理が通れば(道理)引つ込  
イ 急がば(回れ)

の 喉もと過ぎれば(熱さ)忘れる  
お 鬼に(金棒)で怖いものなし  
く (臭い)物には蓋  
や 安物買いの(銭)失い  
ま (負けるが)勝ち  
け 芸は(身)を助ける  
ふ (故郷は)遠くにありて想う物  
こ 子は三界の(柳)  
え (縁)は異なるもの味なもの  
て 手紙はやりたし(字)は書けず  
あ 頭隠して(尻)隠さず  
さ (猿)も木から落ちる  
き 聞いて極楽見て(地獄)  
ゆ 油断(大敵)火の用心  
め 目の上の(たんこぶ)  
み 身から出た(さび)  
し 知らぬが(ほとけ)  
ゑ (閻魔)大王の目にも涙あり  
ひ 貧乏(ひま)梨で忙しい  
も 門前の(小僧)習わぬ経を読む  
せ 背に(腹)は換えられず  
す (粹)は身を食う

見事合格おめでとう  
拍手 パチパチパチ  
拍手 パチパチパチ  
拍手 パチパチパチ

